

私達はこうして出西焼をうみ出した

一、住 所	島根県飯石川郡出西村大字出西 1602番地
二、氏 名	多々納 弘光
三、性 別	男
四、職 業	阿澄製造
五、最終学年	長崎経済専門学校
所属部門	出西村青年団
発表所属部門	第三部

一、はじめに

仕事を仕事をしています
仕事は毎日元気です
出来ないことのない仕事
どんなことでも仕事はします
いやなことでも進んでします
進むことしか知らない仕事
びっくりする程力出す
知らないことのない仕事
聞けば何でも教えます
頼めば何でも果します
仕事の一番すきなのは
苦しむことがすきなのだ
苦しいことは仕事にまかせ
さあさ吾等はたのしみましよう
この詩は私達が毎朝仕事の始めにうたう河井寛次
郎先生の仕事のうたです。
この詩を朗唱しながら陶器作りの仕事を続けて、
もう五年の月日が過ぎ去りました。
若年は、そして非力な者の集いである私達のたゞ
つて来た仕事の道程を振返つて見ると、筆舌につく
せない、恩師や先輩の導びきと教えきれない有縁の
人達の援助によつて激励されつゝけた恩愛の深さに
心が一ぱいになつて来ます。

虚無の深淵にあえいでいた私達の心に千天の慈雨にも似て、しみこんで來たものがありました。
それは河合栄次郎先生の理想主義の哲理でした。
むさぼる様に読書し論議する数ヶ月の後に人格の生長こそ人生の意義であり、それを求め続けることが生きる価値であることを自覚することによつて、この支柱は求められました。そのようこびはお互の心を強く結びつけるに充分がありました。

しかし次・三男としての今一つの不安は満される「とにかく、狭い国土と過剰人口の日本、他の犠牲によつてのみ繁栄することのくり返される資本主義社会の経済制度を考えると、尊い人としての生き方を自覚したことによつてむしろ無定見に、只パンのた自他ともによろこびのある、価値ある仕事を自分達の力で新たに創りはじめて行けないものが次第に愈々し始めた頃、幸なことに、工芸と社会主義理論を打立て、更にその実践家として偉大なウイリアム・モリスの思想を学ぶ縁に恵まれました。

此院ある勤労によつて尊い人生は祝福され、ようこびにあふれて作られる物はこの世に美の華を充たして行くことを説くモリスによつて手仕事の価値を知り、勤労と人生の意義を一つに結ぶ道を探し求め

ることが出来ました。

農民の子として捨て難い土への執着と郷土に陶土の産出すること等が陶器作りへの関心を深め、数ヶ月の思索の後に遂に五人協力してこの仕事に一生を賭してとり組むことを決意して、情熱を湧かして語り明した感激の一晩は、今でも忘ることは出来ません。それは昭和二十二年の晩春の頃でした。

決心して後すぐ一名の友を松江袖珍窯に派遣して技術習得を企てる一方、県立工業試験場窯業部の指導を受けて建設計画を練り、父兄の援助と郷村農校の信用融資によつて資金を得、社事場の建設に着手したのは昭和二十二年八月三日であります。

大念願を実現するようこびに燃えて材木を運び、鍋を振り、煉瓦を作り、希望に充ちて約一年の建設作業によつて二十三年晚秋初めて窯に火を入れました。

それから七年、無謀な冒険に等しい企を案ずる肉親の不安と世間の驚異の中で、お互の友情と信念によりに次々と前途に立ちはだかる難関に向つて進んでまいりました。

研究の過程を振返る前に、仕事によつて教えられて行くことを説くモリスによつて手仕事の価値を知り、勤労と人生の意義を一つに結ぶ道を探し求め

漸く現在私達は一通りの基礎になる技術を習得することが出来ました。今迄は、ひたむきに求めれば苦しみは伴つても次々と解決が与えられました。然しこれからが大変です。けわしい道はいよいよこれからはじまるのだと云わねばなりません。この機会に今迄の歩みを振り返つて白紙からはじめた技術の研究と、仕事と切りはなすことの出来ない心の底を流れる考え方、生き方を反省して今後の進路を見つめるための、しつかりした足場にしたい。そして今後末長く導びいていたゞく方達の適切な指導の資料としていただきたい。

二、仕事を創めた動機

終戦後の巣脱状態の世相の中で当時二十才であった私達は、それ／＼農家の次・三男であり、農地を求める農民としての自立を望むことも出来ず、心の據所もなく、又将来の生活計画も樹てられない深い悩み共通な私達は竹馬の友でもあり、又、小中学校同窓の親友でもあって、いつしか五人の者が一つのものを求めて寄り集つた事は、決して偶然でなく、むしろ人間の恩慮を越えた大自然の意思によるものだとしか思うことが出来ません。

毎夜一堂に集つて暗中摸索を続けているうちに、

三、心の據所

1. 仏教

建設期を終えいよ／＼仕事にとり組んで見て、この仕事が如何に深い熟練技術と技術を越えたものと学びとらねばならぬかを、進むにつれてはつきり感じました。

意の如く進境も出来ず、更に長期にわたる経済的苦しみも加わって、足並は次第に乱れはじめました。

仕事の価値と生存の意義を頭でこなした理想主義の相対的な倫理観で自覚することによつて、強力な和合と仕事へのひたむきな精進は永続出来ません。所詮五人は五人であつて、より正しい一つのものはなり得ないし、又仕事の無条件なよろこびも生れないことを切実に悩みはじめたのは、創めて三年目に当る二十五年の春でした。

その頃に山本空外博士によつて偉大な仏教の教義を聞く機に恵まれることがひかつたら、凡らく物心両面の苦しみによつて苦境を越えないで破滅していくこと、思ひます。

対立する相対二元の世界にあつての苦しみと悩みが深かつた丈に、五人は五つでなくして更に高い一つの次元に結びつけられる世界の発見と、損得眺める人の心を健康な素直でこだわりのない誠意のあふれる世界へとさそわざにおかない過去の民芸品のすばらしい美しさが、有名な大作家の手で作られたのではなく、無名な平凡な駆人達の仕事の中からうまれたものであることを知つた私達の驚きは、美しいものは芸術家のみによつて作られると思つていた丈に非常なものでした。

自力聖道の門を叩いて悟道する世界と同時に生まれて生きることに徹すれば、他力易行の摸取もあることを仏教と民芸は、理と事に示して教えました。私達は芸術家としての素質を持ちません。

個人を超えた浹力と和合の世界の中に自己をより大きく生かすべきであり、集団の一員としての下座なる自己を深め、優れた指導者との浹力によつて多数の人達の調度品を、より多く、より美しく作る工人としての仕事をなすべきであることを

物についての美を説いてはくれませんでした。

しかし、柳宗悦先生によつてはじまつた民芸の教義はどんな物が美しいかを、物についての直観によって教え、更に何故それが美しいかをも理論づけて私達が長年待ちつづけていたものは充分に与えられました。

四、研究の課題

確信しました。

仏教によつて心のすみ家を得た私達は民芸によつて工人として何を作るべきかの目標は明かになり、私達を支える理念とその秘密としての仕事の間に何等排反するもの、ない進路は見出され、自ら共通の一つの念願が生じました。

それは、出来る丈数多くの人達の実用の調度品としての陶器を、より多くより安価に、そしてより美しく作り出そう、というねがいです。

この願いを果すために、

一はより多く、より安価に作ること。

二はより工芸的価値の高い品を作ること。

という二つの研究課題を掲げるに至りました。

私達は農家の次・三男としての自立を、この仕事を育てることによつて達成しなくてはなりません。

農村工業としての成立ちを是非果す使命があります。

私達のこの零細な手仕事による陶器作りは、如何にすれば大資本と機械による多量な廉価生産の産業構造の中で存在の立地を見出すことが出来る

と自我を超えるれば大生産力に生かされ、恵まれて仕事が仕事をすることを知ったよろこびは何物にも代え難いものでした。

2. 民芸の教

ウイリアム・モ里斯は營利主義・機械万能思想の近代工場生産が、暮しから美と喜悦を奪つたことを教えました。そして喜悦ある手仕事によつて暮しを美と結ぶ道を示しました。

モ里斯を学んで出發した仕事でありましたが、真実の美を直觀する力もない私達は、物について何を研究の糧とし誰を指導者とし何を作るべきかを判読することが出来ません。

いつとなくわざとらしい風雅をねらつた形式的な茶道趣味に影響されて、新骨董品とでも言うべき、今想うととんでもない傾向に足をふみ入れかけていました。

モ里斯の工芸觀に出發した私達の求めているものはこんな物であつてはならないという疑問が深まり、大きい壁にぶつつかつて殆ど一年に余る向、迷いに迷いました。

昭和二十五年の夏、不思議な縁によつて民芸の教きうけることが出来ました。

モリスは、あるべき工芸の理論は教えましたが、

か。

「の大問題に対する解決と打開への努力を没却しては、仕事の念願を果すことは出来ません。次に、私達がその問題を見きわめ活路を展くべくとつてきた計画と方法について書き記さねばなりません。

1. 機械と手仕事

新しい時代の工芸は機械によつて創られなくてはならぬ。大量性と廉価性は近代の必然的な要求であつて、手仕事は前時代に葬られるべきものでしかないと云う意見は、

日常生活のための工芸品を作る仕事をする私達にとつては、非常に考慮を要する意見です。

しかし機械産業の最も早く発達したイギリスにモリスの手仕事の価値を主張する運動が何故あれ程大きく歴史にのこつたのか。北欧の、とくにデンマークの工芸がどしづく世界の市場に進出して行くのは何故なのか。

機械万能の産業の発達によつて作者の勤労の底びはなくなつてしましました。

そしてその製品の冷い画一性と不自由性は使う人の生活を、うるおいのない形式的るものとします。商業主義と結びつけば、いよ／＼耐えとはやむづかしいことで、只形而上の解決文で金きを期せません。私達のとつた方法は定期的に、計画会・研究会・反省会を開きお互いの意見を集めて、個人を越えてお互いを規律する指導原理を作りました。

これによつて、仕事の集いを明朗な生々としたようこじと充実感に満ちたものへと高めることが出来ます。

3. 製品の統一

作品の質的な向上と量的な進歩をもたらす今までのもの、あることに気付きました。

流行を追つ変態的な消費心理は資本主義経済社会の病氣を致し方ないと云うことで、多種多様の品を流行に追われて次から次へと変化させる生産方法をとる限り、如何に熟練した技術と真剣な仕事の仕方であつても誠実な品を作ることは出来ません。

られないものになつて来ました。

しかし、それは機械の罪ではありません。その高い能率を私達の新しい手足として主体性をもつて導入し、自由な創造性と順応性に満ちた手作りの仕事に協力させることによつて、新しい正しい仕事を拓いてくれます。

私達はそれを実行して行きました。このことは、零細な仕事場の中へも適切な機械を導入し、充実した合理的な方法によつて手と機械の双方合作を可能な限りおし進めることによつて近代経済組織に適応出来る希望を強いものにします。

2. 仕事の組織

零細企業の多くは封建的な人間関係によつて前進が阻まれています。

新に出発した私達が行く手遙かな困難な仕事

を攻めし、全員の全力を注いで行くためには支配者と被支配者の権力的な關係による組織では、より良い研究も生産も出来ません。

お互いに尊敬し合い抜け合いつゝしかも統一された秩序の中でよろこび合つて働く為に、適材を適所に生かす分業組織を計画しました。

分業した当初、適材適所を得ることは中々困難で約四年間合意によつて度々配置転換して、

私達は当初驚く程多種類のものを軒々として無計画に生産しました。このことは仕事の前進を非常におくらせた要因の一つでした。

零細な規模であればなおのこと、計画的に迷んだ、より少い製作品種に対して研究を集中し、熟練度を高めて質的に量的に向上をはかる必要を感じました。

その計画によつて漸進して来ました。

そしてその過程は確信を深めさせます。

年次	作 品 の 種 類	販 売 先
二十五年 まで	茶器、華器をはじめ装飾陶器 一窯に約二十五品種	地 方
三十七年 前半まで	地方公共団体の記念品としての花器、茶器、酒器、その他約三十品種	地 方
二十七年 以降	食器類十五品種 始め三十品種、漸次統一	東京及地方 鳥取民芸協同
現 在	右 全	

1. 技術研究の方法

中世の工人達は分析や計算によつて技術を覚えたのではなくて、体でもつて知識で知るより以

上に深い力を身につけました。

しかし、私達はそれを真似ることは出来ません。直接の伝統をうけつぐ仕事でなくて新にはじめた仕事であつて、しかも出来る大短時間に身についた技術を持つためには合理的に、科学的に仕事を研究しなくてはなりません。

只そこに極めて大切な心得ねばならぬことがありました。私達は決して自分達の運知の力によつて分析し解剖して得た科学的な技術の知識によつて計算的に仕事を組立て、自然に反逆して自らを創造者の位置にある如く思い上の、いわば構成技術者となつてはならないことです。

大自然に恵まれ、生かされる自然の子である私達は、その創造の御業の参与者でなくてはなりません。

a. 研究組織

研究範囲の広く、又奥深い仕事を学ぶために研究対照を仕事の工程によつて大別し、一人一工程を原則として研究し、研究計画、研究発表、研究反省を目的にする会合を十日にして一度ずつ開いて、常に五人の研究が連絡をもつて調和のとれた、全体としての総合につとめました。

吉田 稔也 先生	プロデューサーとして、仕事の方針、その他一切の指導をうける。
舟木 道忠先生	郷土の憐れた作家であり、常に作品を持参して批判を仰ぐ。
浜田 庄司先生	二七年以後時々指導を仰ぐ。
河井 寛次郎先生	特に焼成、釉薬をはじめ作品の批判を仰ぐ。
バーナードリー・チ先生	二八年、全員窯地について指導をうけ、特にハンドルの技法、スワップの技法を教わる。

c. 伝統に学ぶ

日本には今尚すばらしい伝統を保存した仕事が各地方に存在しています。

その地方の持味の美しい原料による恵みと、それを完全に生かした自由自在な技術と、意識を超えた仕事の生命を学ぶ為に文書で留学して学びました。

年月	地名及窯	研究者	研究期間
廿三年	唐津	松江、袖師窯	研究者
廿二年	中島空慧	中島空慧	一年

年月	地名及窯	研究者	研究期間
廿一年	多々納弘光	多々納弘光	二ヶ月

氏名	研究分担	仕事の分担
井上寿人	焼成、釉薬	焼成型
陰山千代吉	設備	設備管理
中島空慧	原料、素地土	ロクロ製型
多々納良夫	製型と絵付	ロクロ製型
多々納弘光	管理	経営管理
金津滋先生	デザイナーとして、常に製作全般の指導をうける。	型製型と仕上

b. 指導者
工人としての私達にとつて優れた指導者を持つことは仕事を左右します。

新作民芸は決して中世への懷古趣味のために仕事をしているのではなくて、新しい生活型式に適応した工芸品を作ることであつて、その為には常に創造進歩することが必要です。優れた指導者は正しい選択力をもつてこの要求を充足人でなくではなりません。

幸、私達は沢山の偉大な指導者に恵まれました。

廿四年	石見	陰山千代吉	三ヶ月
廿六年	大分 小鹿田窯	井上寿人	短期
廿七年	橋本 益子窯	多々納良夫	一ヶ月
廿七年	丹波 立杭窯	中島空慧	二ヶ月
廿七年	京 都	/	五ヶ月
			一ヶ月

▽ 出雲地方の諸窯、鳥取民芸館は全員で屡々見学旅行をします。
▽ 東京民芸館、鳥取民芸館、倉敷民芸館は正しい伝統を学ぶ最適の場です。